

私たちもがんばっています！

障害者の「完全参加と平等」の実現をテーマとする国際障害者年を契機として、益城町身体障害者福祉協会（塔尾義昭会長、会員二百十三人）では、各種の奉仕活動を行っている。その中に町内のカーブミラー磨きがある。現在、益城町には六百五十個のカーブミラーが交通危険箇所にあるが、このほど春の交通安全運動にあわせて、塔尾会長他百五十人の比較的元気な人が参加し、校区ごとに手分けして奉仕作業を行った。

この奉仕作業は、警察、交通安全協会はもちろんのこと、町内外のドライバーからも大変感謝されている。

「障害者も、自分から進んで積極的に社会活動に取り組んでいかなければ本当の『完全参加と平等』はない。そのステップがカーブミラー磨きである。」と塔尾会長は語る。



▲国際障害者年記念
益城町福祉スポーツ大会から（輪になって）



▲町内外のドライバーから
大へん感謝されているカーブミラー磨き

▲国際障害者記念
益城町福祉スポーツ大会から（仮装行列）

